

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_  
令和 7年 4月 1日

(株)加島建設 生コンクリート工場

広島県庄原市高野町新市418番地  
TEL (0824) 86-2228  
配合計画者名

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間 a)	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ <sup>o)</sup> 又はスランプ <sup>o)</sup> フロー <sup>o)</sup>	粗骨材の最大寸法	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
空気量	-				

使用材料 c)				
セメント	生産者名	株式会社トクヤマ	密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04
	Na <sub>2</sub> Oeq % d)			-

混和材①	製品名	種類	密度 g/cm <sup>3</sup>	Na <sub>2</sub> Oeq % e)
混和材②				

骨材	No.	種類	産地 又は 品名	アルカリ反応性による区分 f)		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm <sup>3</sup> 絶乾表乾		微粒分量の範囲 % i)
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	モルタルバー法	5以下	2.60	-	2.57	3.0以下
骨材	②	砕砂	広島県三次市布野町下布野	A	化学法	5以下	2.70	-	2.64	3.0±2.0
粗骨材	①	砕石1505	広島県三次市布野町下布野	A	化学法	15~05	6.30	-	2.72	1.0±1.0
	②	砕石2010	広島県三次市布野町下布野	A	化学法	20~10	7.00	-	2.72	1.0±1.0

混和剤①	製品名	種類	AE減水剤 (標準形 I 種)	Na <sub>2</sub> Oeq % j)
混和剤②				
混和剤③				

細骨材の塩化物量 k)	① 0.00 %	水の種類 l)	回収水 (上澄水)	目標スランプ 固形分率 m)	- %
回収骨材の使用法 o)	細骨材	粗骨材	-	スランプ 水の使用方法 n)	-

配合表 p) kg/m <sup>3</sup>													
セメント	混和材		水 q)	細骨材			粗骨材			混和剤 r)			
	①	②		①	②	③	①	②	③	①	②	③	
335	-	-	174	396	397	-	299	697	-	-	2.747	-	-
水セメント比 s)	52 %			水結合材比 s)	-			細骨材率	45.4 %				

備考	骨材の質量割合(割合), 混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比 (質量混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②	50.0:50.0 30.0:70.0
----	---	--------------	------------------	------------------------

注 a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
 注 b) 骨材のアルカリ反応性による区分、区分別試験方法は、配合設計したスランプ区分中の骨材であり、自標スランプ区分中の骨材である。また、標準配合とは、出荷時のコンクリート強度が標準配合で想定した強度より大幅に超過する場合、運搬時の振動による強度低下に留意する。又は骨材の品質の異なる範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。ただし、新骨材の品質変動の補正において、固状骨材をA方法で使用する場合は、混合割合の補正を行わずによい。  
 注 c) スランプフロー試験方法は、JIS S 5109全アルカリの値としては、直近の小自標の経験値を参照して、全アルカリの配合値の最も大きい値を記入する。  
 注 d) 骨材のアルカリ反応性による区分、区分別試験方法は、配合設計したスランプ区分中の骨材であり、自標スランプ区分中の骨材である。また、標準配合とは、出荷時のコンクリート強度が標準配合で想定した強度より大幅に超過する場合、運搬時の振動による強度低下に留意する。  
 注 e) アルカリシリカ反応性による区分、区分別試験方法は、配合設計したスランプ区分中の骨材であり、自標スランプ区分中の骨材である。また、標準配合とは、出荷時のコンクリート強度が標準配合で想定した強度より大幅に超過する場合、運搬時の振動による強度低下に留意する。  
 注 f) 骨材に対しては、砕石、スラグ骨材、人工軽集積骨材、及び再生骨材については粒の大きさの範囲を、粗骨材に対しては、砕石、スラグ骨材、人工軽集積骨材については粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。  
 注 g) 骨材に対しては、砕石、スラグ骨材、人工軽集積骨材、及び再生骨材については粒の大きさの範囲を、粗骨材に対しては、砕石、スラグ骨材、人工軽集積骨材については粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。  
 注 h) 骨材の粗粒率又は実積率を記入する。  
 注 i) 骨材の微粒分量の範囲を記入する。  
 注 j) スランプフロー試験方法は、JIS S 5109全アルカリの値としては、直近の小自標の経験値を参照して、全アルカリの配合値の最も大きい値を記入する。  
 注 k) 骨材の塩化物量を記入する。  
 注 l) 水の種類を記入する。  
 注 m) スランプフロー試験方法は、JIS S 5109全アルカリの値としては、直近の小自標の経験値を参照して、全アルカリの配合値の最も大きい値を記入する。  
 注 n) 骨材の品質変動の補正は、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
 注 o) 骨材の品質変動の補正は、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
 注 p) 骨材の品質変動の補正は、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
 注 q) 骨材の品質変動の補正は、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
 注 r) 骨材の品質変動の補正は、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
 注 s) 骨材の品質変動の補正は、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 27	スラブ又はスラブフロー cm 12	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号 BB
-----	----------------------	------------	-------------------------	----------------------	--------------------

指定事項

(1) 変動係数 (v)	当工場の実績により v = 10 %				
(2) 配合強度 (m)	$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 33.8 \text{ N/mm}^2$ よって m = 33.8 N/mm <sup>2</sup>				
(3) 水セメント比 (W/C)	$m = -17.5 + 26.9 \times C/W$ $W/C = 26.9 \div (33.8 + 17.5) \times 100 = 52 \%$ W/C = 52 %				
(4) 単位水量 (W)	当工場の実績により W = 174 kg/m <sup>3</sup>				
(5) 単位セメント量 (C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 174 \div 52 \times 100 = 335 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 335 \div 3.04 = 110 \text{ L/m}^3$				
(6) 空気量 (A)	A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m <sup>3</sup>				
(7) 細骨材率 (s/a)	当工場の実績により s/a = 45.4 %				
(8) 単位細骨材量 (S)	$S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 671 \times 45.4 \% = 305 \text{ L/m}^3$ $S = S_v \times \text{表乾密度} = 305 \times 2.60 = 793 \text{ kg/m}^3$ $S_1 = S \times 50.0 \% = 396 \text{ kg/m}^3$ $S_2 = S \times 50.0 \% = 397 \text{ kg/m}^3$				
(9) 単位粗骨材量 (G)	$G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 634 = 366 \text{ L/m}^3$ $G = G_v \times \text{表乾密度} = 366 \times 2.72 = 996 \text{ kg/m}^3$ $G_1 = G \times 30.0 \% = 299 \text{ kg/m}^3$ $G_2 = G \times 70.0 \% = 697 \text{ kg/m}^3$				
(10) 単位混和剤量 (Ad)	Ad = C × 添加率 = 335 × 0.8200 % = 2.747 kg/m <sup>3</sup>				

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
335	-	-	174	396	397	-	299	697	-	-	2.747	-	-
水セメント比	52 %		細骨材率	45.4 %			骨材混合比 (質量混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②				50.0:50.0 30.0:70.0	

備考